

事例2

大学での キャリア カウンセリング

商社の営業職志望から IT業界SEに方向転換

こころとキャリアのカウンセリングオフィス^{ゆづ}
代表

山本公子

Aさん(21歳女性) 大学商学部4年生

■商社の営業を目指して

大学のキャリアセンターに来所したAさんは、きちんと整った文字で相談票を記入。おだやかで控えめな印象だが、実は頑張り屋。最も厳しいゼミに所属し、学生が自主的に研究を進め、企業との共同研究で成果をあげた。また、プレゼンテーション大会ではチームをまとめ、部門賞をとった。部活は会計学関係でサブリーダーをしていた。

商社の営業の仕事に就きたい。お客様とお客様の間に立ち、相互に情報を提供することによって新しい価値や製品を生み出す仕事に面白みを感じたから。大きなお金を動かすことや仕事の達成感が数字で見えるのも魅力。

本当は総合職としてやはり働きたいが、あまり体が丈夫ではないので無理な働き方はしたくないため、一般職も考えている。

自分の強みは課題を発見し、計画的に改善することができることだと思う。個別指導の学習塾でアルバイトをしていて、小学生から高校生まで教え、新人講師の教育もしていた。塾生のモチベーションを上げるという課題があったときは、まず子どもたちにアンケートをとって要因を分析し、頑張る気持ちになれるよう、出席ポイントやギブト制度、周知の方法を改善するなど複数の提案をして、実際に出席率、塾生のやる気、利用者数などをアップさせる成果をあげた。

■持ち駒がなくなると

モチベーションが落ちる

可能性を探るためGATBを実施
十分に力のありそうなAさんだが、選考が進んでいなかった。金融系には興味がなく、インテリアやファッションに興味があり、繊維関係にこだわっていた。繊維、生地、服地、紳士服まで、魅力があると思う商社を選んで、営業職や総合職でエントリーした。書類は通っても、一次面接がなかなか通らない。業界を広げ、一般職にも応募したがうまくいかない。

エントリーシートの添削にも来室。話を聞いて、テーマをゼミ中心からアルバイトを入れたり、内容を整理して文字数を減らしたり、具体的エピソードを入れて自分らしさを表現するようにしてもらった。しかし、モチベーションが落ちている様子が見てとれたので、可能性を探るためにGATB(厚生労働省編一般職業適性検査)を実施する。

結果は全体に優れており、認知機能は数理以外の評価段階はAで、とりわけ言語能力が高かった。知覚機能、手腕や指先の器用さを含む運動機能とも、普通からやや良い範囲だった。その結果、適性職業群の照合では、自然科学系の専門職、医師等だけが「L基準を満たしていない」ほかは、すべての職業群に適性ありとなった。Aさんは、幅広い職業に十分な可能性ありと出たことで、少し自信が持てたように、活動範囲を広げたいと述べた。

■IT業界のSE職に出会う

食品業界で好きなブランドの関連会社の説明会に出たところ、SEの募集

だった。SEに興味はなかったが、話を聞いていたらできるかと思えた。「お客様の要望を聴いて形にする、課題を解決していくような仕事で、コミュニケーション能力が大事」と言われた。それは、自分がゼミ活動や塾講師の仕事でやっていたことなので、できるのではないかと興味が湧いた。

夏に来たときは、「2社で内定がとれ、本命の会社は最終の結果待ち」と報告がある。

内定の1社はSEだった。ITの知識は入社してから研修があるが、SEは理系の人が多い。会社から「スキルがないのに文系を採るのは、バランスの良い人を求めているから。必要なのはコミュニケーション力。お客様の話を聴いて問題を見つけ、理系の人との間に立って、双方に伝えていく能力が求められる」と言われた。

その後、AさんはそのIT企業に入社が決まる。

■就職活動の振り返り

商社は企業としての魅力があり、仕事が面白いと思ったが、全く通らなかった。SEに変更したら、内定がとれるようになった。

商社営業に興味を持ったのは、考えて情報を結びつけて、課題を解決していくところ、海外で仕事ができそうだし、勉強して向上できるということだった。商社のグループアイスカッションでは、自分から発言して、積極

的に動いたつもりだが、結果が出なかった。あとで思うと、周りで商社に採用された人は、積極的に人に関わっており、自分とは違っていた。

■ VRTの結果プロフィールから

A検査(興味)は強弱がはっきりして「A芸術的」「E企業的」「C慣習的」「I研究的」が強く、「R現実的」「S社会的」が弱かった。しかしC検査(自信)では、強いところは「C慣習的」「I研究的」「S社会的」となった。

「S社会的」は自信と興味の差が大きく、Aさんも「人間力に自信がある」という。自信の高さは、塾での教える経験、ゼミ経験の積み重ねなどに裏付けられているようである。

Aさんは「S社会的」と「P対人志向」がこんなに低い、そういうところが商社が

求める人材と違ったかな、私は自分から人に向かっただんどんいくほうではない」と自己分析をした。Aさんは冷静に話をするタイプで、論理的、緻密であるが、感情を直接表に出すようなことはあまりないの

で、与える印象が薄くなるのかもしれない。

「P対人志向」全体は低いですが、下位尺度「人の役にたつ」は7点と非常に高かった。人に関心を持ち役立ちたいと思っ

ているが、あまり自己表現せず、人と距離をとっているようだ。Aさんは、「私は社交的ではないので、親しい友人が少なく自分のエリアを守っている」と言う。

データを併せてみると、Aさんの「人の役にたつ」は、「S社会的」社交的で親しく接する、奉仕する「役立ち方」よりは、「E企業的」指導者として接する、説得

分析し、解決方法を考え上手に指導できそう。それが対人スキルの自信の高さにつながっているようである。

興味では「A芸術的」が最高で、繊維関係の業界を選んだことや、趣味が、映画鑑賞や料理、旅行で、書道も長年習っていたことと関連しているようだ。

自信が「C慣習的」「I研究的」「S社会的」であったことについて、Aさんは、大学進学するとき、生活の心配がなければ日本史を学んで「学芸員」になりたかった、でも、それでは就職できないだろうと、勉強がしつかりできて、就職に困らない商学部を選んだと堅実な考えを述べた。就職後については次のように回答しており、人生に対する考え方も堅実で安定を求めていることが現れている。

組織の中で専門性を持って長く働き

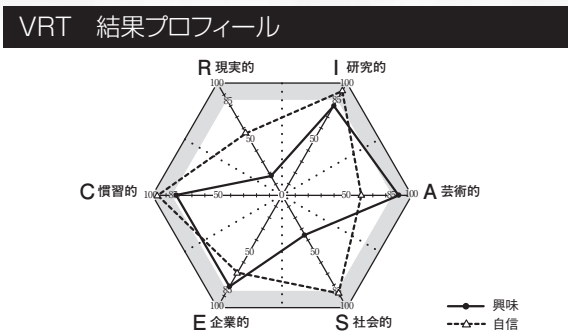
たい。自分の望むライフスタイルは、安定して不安のない生活、文化的な生活、よい上司に恵まれること。望む生活を実現するために働きたい。私生活を犠牲にしてまで仕事をしたいとは思わない。

■ Aさんの良さを見いだした人事担当

内定を得た会社では数回選考があり、毎回担当していた人事の女性がいた。実はその人がAさんを強く推してくれた。Aさんは控えめで淡々としているので、実ははばりばり働きたい、という熱意が伝わりにくい。数回会って、観察し、さりげない会話などから、Aさんの聡明さ、秘めた熱意や頑張りといった良さを見いだしたのである。Aさんと人事担当者は共通する特性があるかもしれない。

Aさんに、「SEで採用されたが、いずれはリーダーとなり、異動もありうる。Aさんは考える力、観察力、分析力、マネジメント力、成果をあげられる強みがある。人をサポートし、役に立ちたいと考えている。もし興味があるなら、将来、採用や研修を担当しマネジメントするような人事や研修、労務分野にも向いているかもしれない」と伝えると、Aさんは、「人事や労務などにも興味があります。いろいろと経験していきたい。まずはSEとして専門の勉強をして、働いていきたい」と明るく語った。

自信の強い「C慣習的」「I研究的」、そして「S社会的」という特性や、強み、良さを活かして、「人の役に立ちたい」という思いを実現できそうな仕事に就くことになったAさん。今後、熱意と堅実な働き方で、粘り強く希望のキャリアを築いてほしいと願っている。



VRT 基礎的志向性のプロフィール

基礎的志向性	標準得点	弱い ← 基礎的志向性 → 強い	パーセンタイル順位
D 対情報志向	98		
P 対人志向	30		
T 対物志向	89		

VRT 基礎的志向性の下位尺度のプロフィール

基礎的志向性(DPT)	○の数	○の数が棒グラフを塗りつぶしましょう。	解説
D 対情報志向	D1 情報を集める	7	たくさん情報を集めたいという気持ちが強いことを示す。
	D2 好奇心を満たす	8	物の中や社会的しくみに對して好奇心が旺盛で、知りたい気持ちが強いことを示す。
	D3 情報を活用する	6	集めた情報をきちんと整理し、順序立てて管理し、有効に活用したい気持ちが強いことを示す。
P 対人志向	P1 自分を表現する	2	人前できちんと自分を表現し、自己表現を行いたいという気持ちが強いことを示す。
	P2 みんなと行動する	4	一人で過ごすよりたくさんの人と一緒に行動したいという気持ちが強いことを示す。
	P3 人の役にたつ	7	人の気持ちに敏感で、他人の援助をしたいという気持ちが強いことを示す。
T 対物志向	T1 物をつくる	5	道具や機械を使うような物づくりを好む気持ちが強いことを示す。
	T2 自然に親しむ	7	自然の環境の中で動物を観察したり、身体を動かすことを好む気持ちが強いことを示す。

